

NIHONJIN NO WASUREMONO  
**日本人の忘れもの**  
 第2部 忘れもの 37  
 著 華 森 清 範 清水 貴 真

## 四季の変化



木下博夫  
 公益財団法人国立京都国際会館館長

東日本大震災が発生して2年が経過する。復興の姿はまだ見えにくいが、日本人はこの震災によって「住民間の絆の大切さ」と「自然エネルギーの凄さ」を実感した。

過去の地震、火山、台風等の災害史を振り返ってみると、災害は忘れた頃に来る程度ではなく、まさに頻りに歴史の中に刻みこまれていく。第2次大戦後、昭和20年代は毎年のように台風が襲来し、年間一千人を超える死者が発生していた。火山噴火も全国各地で経験している。

地球の息づかいは厳しく、多くの試練を与えてきた

このように、地球の息づかいは大変

現代社会は四季の変化により  
 得られた優しさ、豊かさ、  
 素晴らしさを粗末に扱い、  
 忘れかけていないだろうか。

厳しいものであり、人類に多くの試練を与えてきた。しかし一方で、自然がつくりだす山

川の存在、草花の営みは人間では作れない景観、光景を提供してくれている。特に私たちが日本人にとって、毎年繰り返す春夏秋冬の季節の変化は、他の諸外国では経験できない豊かさを日常生活において味わわせてくれている。



物が市場に出回っている。また食材の持つ真の味が忘れられ画一化したメニューが支配して、味わいのある食文化の素晴らしさが遠のいていっているのも現状である。

そもそも人間の考え方、生活様式は自分の住んでいる風土、環境と切っても切れない関係が強いことは、改めて確認するまでもない。

秋になれば紅葉した木々の落葉を愛でつつ、掃き片付けの生活スタイルは「かどはき」として地域の連繫に貢献

温帯モンスーン地帯にあって、四季の繊細な変化の中に住んでいることにより得られた優しさ、豊かさ、素晴らしさを粗末に扱い、忘れかけているのではないだろうか。

人間が本来持つ心の豊かさを育ててくれる季節の変化を、しっかりと受け入れるスタイルを取り戻すことにより、心、社会の安定をぜひ実現してほしい。そして一つ提案しておきたいことがある。それは、国民総出で年間数日でもいいからボランティア休暇を取り、山林の下刈り、河川敷の清掃、堆肥づくりによる、国土の肥沃化などの労働奉仕を義務化する法制化を図ってはどうか。こうした国民的作業が、生き生きとした四季の変化を実感することを取り戻す一助になると考える。私も推進委員会の特別委員の一人として微力ながら進めている「古典の日」により、蘇る知的探索とともに。

し、夏には打ち水や川床によってさわやかな涼をとる知恵を育て、たらいにはつた水が太陽エネルギーの恩恵によって心地良く体を清める温水を提供してきた。



日本人の持つ感性は、自然の中で培われてきた

日本人の持つ国民性、感性は、こうした山川、海、平地が織りなす環境の中で生活によって永年培われてきたのである。

一方で現代の食生活においては、飽食により無駄な食材食料が使われ、しかも季節感を失わせるような野菜、果

●きのしたひろお  
 1943年、静岡生まれ。67年京都大学卒業後、建設省(現国土交通省)に入省し、地域計画、道路、河川、建設産業などの分野を担当。その後84年京都市計画局長、助役(現副市長)。2000年国土庁事務次官を経て、05年阪神高速道路株式会社社長に就任。12年3月から現職。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千の都・京都から温故知新的知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

きょうの季節せ (三)

寺の春  
 鸚鵡人語に  
 熟しけり

相島虚吼



「鸚鵡返し」という言い方がある通り、鸚鵡がどの程度教えられた文言を記憶し、不意に自在に発話するのか、知らないけれども、少なくとも、その場で話しかけられれば、そつくりそのまま返してくる。

「熟しけり」は習熟していることながら、とりわけ寺院で飼われていることを思うと、お経の一説などと連想すると楽しくなる。

(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」

芝田美津子  
 (京都八幡市)78歳

お礼と感謝

お風呂の部品をなくした。直接注文すれば済んだのに、ついお風呂を作ってくれた当時の業者さんにお願ひする。早急な返事をしてくれ、結局その市販品は壊れてしまったが、手取り早く安価にの計りから長時間の手間を買ってしてくれ、開けることのない内部の汚れまでふき取ってくれた。「ごめんなさい、ごめんなさい」と言う私に、「そんなに何回も謝らないでください」という業者さんのひと言。そう言われてはじめて、私は無意識にこの言葉を発していることに気付いた。

在職中は、終日「ありがと、ごさいます」「すみません」「申し訳ございません」が習慣になっていた。こちらが悪いわけではなくとも、相手に不愉快な思いをさせず納得してもらおう、お礼を込めた配慮だったと思う。後日、新しい部品の代金の支払い時にまた、「ごめんなさい」の言葉になりそうだった。お礼の意味を込めて……。

「きょうの心伝て」募集

●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか? 暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の系譜や、伝えたい京都に残る心遣いなどを寄せて下さい。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。  
 E-mail: wasuremono@kyoto-np.co.jp  
 Fax: 075-22212200

●日本人の忘れもの第2部のバックナンバーは、京都新聞ホームページでご覧いただけます。  
[http://kyoto-np.jp/kyo\\_nw/info/nwc/](http://kyoto-np.jp/kyo_nw/info/nwc/)

**yasaka**

いまでも、これからも。  
 京都で愛されて90余年。  
 今日も明日も、人としあわせ、お乗せします。

ヤサカタクシー・ハイヤー 075-842-1212 ヤサカ観光バス 075-681-2151